

がん治療とαリポ酸点滴療法

驚異の抗酸化剤αリポ酸

— 晩期C型肝炎の肝がんに対する苦痛と副作用のない新しい治療法

村上正志 医療法人社団貴正会村上内科医院理事長
京都府立医科大学客員講師



はじめに

活性酸素の世界的権威である、パッカー先生の著書『アンチオキダントミラクル（抗酸化物の奇跡）』では、代表的な5つの抗酸化物（αリポ酸、ビタミンE、ビタミンC、コエンザイムQ10、グルタチオン）の中で「リポ酸は万能の抗酸化物」と冒頭に紹介されています。

パッカー先生は、リポ酸のこと

を高く評価されています。私は日本ではあまり知られていないαリポ酸を、晩期のC型肝炎患者さんに積極的に投与しました。

αリポ酸の点滴療法を主体にして、晩期C型肝炎の肝がん治療、外科的手術後の再発予防、慢性期からの肝がん発症予防など、あらゆる肝がん治療に驚異的な効果を認めました。

* 晩期のC型肝炎患者さんは、肝がんになりやすくなかなか治らないという暗いイメージ

がありますが、αリポ酸点滴では進行した肝炎でもまだがんにならずにすむという希望があり、「晩期C型肝炎」と呼ぶことにしました。

晩期C型肝炎の現状

晩期C型肝炎の人は、進行してくると非常に肝がんになりやすくなり、肝がんは一度できると、内科的に消しても、外科的に切除しても、

なり、内科的治療が無理になった場合に行われます。しかし、それらの治療は痛みと副作用が強く、がんが発見されるたびに治療がくり返されるのです。

患者さんの中には10回以上治療を受けている人もいて、そのような人にとっては治療は、終わりがなく、非常に苦痛を伴います。

ビタミンC点滴からαリポ酸点滴での肝がん治療

高濃度ビタミンC点滴は、あらゆるがんに対して副作用がなく、効果が認められる方が多数います。

晩期C型肝炎患者さんに対して、肝臓保護剤のみの治療から高濃度ビタミンC点滴療法を加えて肝がん発症予防を期待しましたが、ほとんどの方が、今までのラジオ波焼灼療法、エタノール注入治療、カテーテル治療を続けることになり本当に効果があるとは実感しませんでした。

実際に肝臓保護剤のみの治療から高濃度ビタミンC点滴療法を加えて肝がん発症予防を期待しましたが、そんなとき、パッカー先生の本

の中で、αリポ酸を用いて肝疾患の治療を行っていたバートン先生が臨床医でただ1人紹介されていました。それは「末期肝臓疾患に効果がある」との内容でした。

実は、バートン先生は東京で点滴療法研究会で講演されており、私は、αリポ酸に非常に興味を持っていました。

それで、私は迷わずに晩期C型肝炎に対してビタミンC点滴をαリポ酸点滴に変更しました。

すると、ほとんどの晩期C型肝炎の人に効果が見られたのです。効果の現れる時期は人により違いがありました。ほとんどの方が肝がんの腫瘍マーカー（AFP）に検査改善が見られ、腹部検査でも再発が認められなくなりました。

αリポ酸点滴により、苦痛を伴う標準的肝がん治療をしなくてすむようになったのです。

αリポ酸点滴療法の実際

αリポ酸点滴療法は、短期集中的に投与する方法、またはビタミンC点滴と併用する方法とかわいりるな方法があります。

私の経験では、晩期C型肝炎か

らの肝がんは、他のがんと違って急に出現したものでないと考えられます。肝臓そのものがウイルスにより長い間にダメージを受けており、簡単に治るものではありません。

そこで時間的、経済的なことも考えて当院では、最初から高濃度ビタミンC点滴と同じ回数で行っています（1週間に2回）。

また、肝臓の破壊が現在も起こっている人は肝臓保護剤も併用しています。

当院でαリポ酸点滴をしている方は他院通院の方がほとんどです。検査データやCT検査などの結果を検討しながら治療をしています。

当院では晩期C型肝炎は、肝がんにはならない病気であり、何回も再発している人でも再発しなくなる存在になりつつあります。

だから点滴治療中も皆、笑顔で安心感がただよっています。

VC点滴からαリポ酸点滴に変えた症例

症例1 60歳、男性

晩期C型肝炎で、1994年より肝臓保護剤（強ミノCとウルソ）

もぐらたたきのように次々に発症します。それは、他のがんと違って、肝がんの場合は、肝臓全体ががんになりやすい状態になっているからです。

現在の肝がんの標準的な治療には、CTでできるだけ早期に肝がんを発見し、ラジオ波での焼灼術、エタノール注入法、カテーテルによる塞栓化学療法、または抗がん剤（ネクサバル）の内服などがあります。

外科的治療は、肝がんが大きくなると治療するもAFPが少しずつ増加。

2008年、肝がん発症予防のため高濃度ビタミンC点滴を開始。以後、年に2回、ダイナミックCTにて検査するも肝がんは陰性。

2009年6月、S6辺縁部に20ミリ径の肝がんをCTで確認する。同年10月、摘脾。11月、S6の肝がんに対して肝がん核出術施行。

2010年7月より高濃度ビタミンC点滴からαリポ酸点滴に変更。ほぼ週に2回肝臓保護剤とともにαリポ酸の点滴を実施。

それ以後、年に2回のダイナミックCTをしているが1度も肝がんの再発を認めていない。AFPは、2014年1月には59と今まで最低値となった。

症例2 67歳、女性

晩期C型肝炎で2004年頃より何回も肝がんを疑われ、CT検査を何回もしている。AFPも最高で408まで上昇している。2009年5月より高濃度ビタミンC点滴療法を開始。しかし、2012年10月エタノール